

令和5年10月20日

## < Press Release >

### 日本学術振興会特別研究員の採択率に男女差が見られることを発見

#### 本研究成果のポイント

- ・研究助成金などの審査過程において、無意識のジェンダーバイアスが審査結果に影響する可能性が欧米での研究から知られていますが、日本を含む非欧米圏での実態はよくわかっていません。
- ・日本学術振興会特別研究員制度は、日本における若手研究者育成のための重要な制度で、若手研究者の登竜門的な役割を果たしています
- ・本研究では、日本学術振興会特別研究員の採択率が女性よりも男性で高いことを明らかにしました。
- ・本研究結果は、欧米以外の国・地域における助成金採択率の男女差を報告した初めての研究であり、より良い研究環境を検討する上での重要な発見です。

#### 【概要】

京極大助（兵庫県立人と自然の博物館）と和田葉子（宮崎大学）の研究グループは、日本学術振興会特別研究員の採択率が女性よりも男性で高いことを明らかにしました。また、採択率の男女差が研究分野によって異なること、採択率の男女差が女性応募者の数と関係することを明らかにしました。

助成金やフェローシップの獲得は若手研究者がキャリアアップするうえで重要な業績です。これら競争的な資金の申請書は専門家による査読を受けます。既存研究により、こうした査読制度が、審査委員のもつ無意識のバイアスの影響を受ける可能性が指摘されていました。しかし、これらの研究はヨーロッパ、北米、オーストラリアの助成金制度等を対象としており、日本の現状は良く分かりませんでした。本研究では、公開データを統計的に解析することで、日本学術振興会の特別研究員制度の採択率に男女差が見られることを明らかにしました。また、採択率の男女差がこういった要因と相関するかについても検討を行いました。

本研究は、欧米以外の国におけるフェローシップ採択率の男女差を報告した初めての研究です。本研究結果から、審査過程における無意識のバイアスが存在する可能性が示唆されました。この結果は、女性研究者が活躍しやすい環境づくりを考えるうえで重要な発見であると言えます。

#### 【詳細】

##### 背景

助成金やフェローシップの獲得は、若手研究者のキャリアにとって重要な意味を持ちます。これら競争的な資金の申請書は専門家による査読を受けます。専門家による査読は、研究計画を評価する上で重要な仕組みです。一方で、こうした査読制度が審査委員のもつ無意識のバイアスに影響される可能性が、既存研究によって明らかにされています。例えば応募者の名前から推定される性別や人種、国籍が無意識のうちに評価をゆがめることが知られています（図1）。しかし、これらの研究はヨーロ

ツパ、北米、オーストラリアの助成金制度等を対象としており、日本の現状は良く分かっていませんでした。

日本において、日本学術振興会の特別研究員への採択は、若手研究者の登竜門的役割を果たしています。日本学術振興会の特別研究員には、博士課程学生を対象とした制度や博士号保持者を対象とした制度など、いくつかのプログラムがあります。これらの制度に採択されると、生活費のほかに研究費が与えられ、自由な発想にもとづく研究を数年間にわたり行うことができます。このような研究活動は、研究者として独立するために経験を積む重要な機会となっています。この日本学術振興会特別研究員の応募者数と採択者数は、年ごとに男女別で公開されています。

本研究では、この公開データを統計的に解析することで、男性応募者と女性応募者の採択率に差がみられるかを調査しました。また、採択率の男女差にどのような要因が影響しているかについても検討を行いました。

## 結果

本研究では、2017年度から2021年度までの5年間に審査された申請を調査対象としました。また、日本学術振興会特別研究員制度のうち、博士課程1年生を対象とするDC1、博士課程2年生以上を対象とするDC2、博士号取得者を対象とするPD、海外で研究を行う応募者を対象とする海外特別研究員制度（以下、海外学振）、産休・育休明けの研究者を対象とするRPDの5つのプログラムを調査対象としました。

解析の結果、5つのプログラム全てで採択率は女性より男性のほうが高いことが明らかとなりました（図2）。また、キャリアが進むほど採択率の男女差が大きくなる傾向が認められました（学生を対象とした制度より、博士号保持者を対象とする制度で男女差が大きい）。少数派に対する無意識のバイアスの程度は、研究分野によって異なることが知られています。そこで、研究分野の違いを調べる解析を行ったところ、海外学振とPDでは、採択率の男女差が研究分野ごとに異なることが分かりました。とくに数物系科学や医歯薬学系などで採択率の男女差が大きい傾向が見られました。また、女性に対する無意識のバイアスは、女性が少ないときにより顕著になることが知られています。そこで、女性応募者の数の効果を調べる解析を行ったところ、PDでは女性応募者が多いほど採択率の男女差が小さくなることが分かりました。しかし、DC1では、女性の応募者が多いほど採択率の男女差が大きいという逆の傾向が見られました。興味深いことに、応募者に占める女性の割合は、より若い応募者を対象としたDC1やDC2で低い傾向がありました。女子学生よりも男子学生の方が積極的にDC1やDC2に応募している可能性があります。こうした男女間の行動特性の違いも、今回の結果に影響している可能性があります。

## 研究の意義

今回、助成金やフェローシップの審査における採択率の男女差を欧米以外の国で初めて定量的に明らかにしました。本研究が明らかにした採択率の男女差は、審査過程において無意識のバイアスが働いていることを示唆するものです。本研究結果は、日本を含む非欧米圏でのさらなる調査の必要性を明らかにするとともに、より公正な審査を行うためにどのような取り組みが必要であるかを検討する出発点となるものです。今後、採択率の男女差が生じる原因解明について、さらなる研究が期待されます。

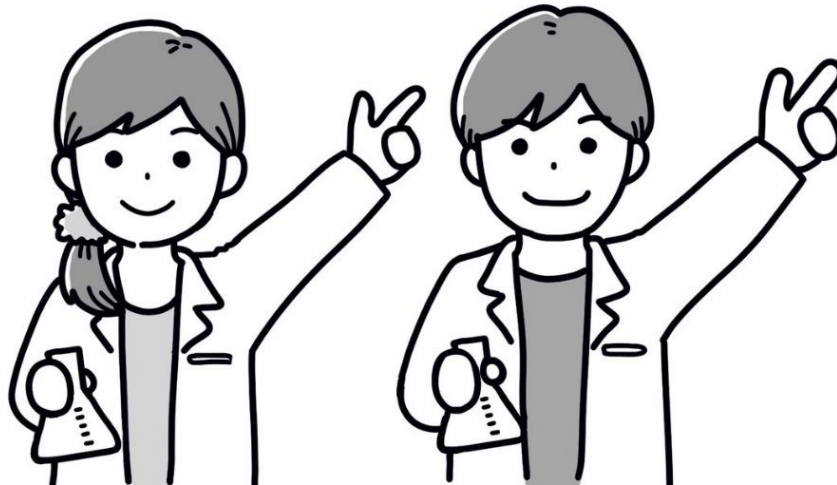


図1. 女性研究者と男性研究者のイラスト。どちらの研究者のほうが優秀な印象を受けるでしょうか。何となく男性のほうが優秀そうだと思ってしまう無意識のバイアスは普遍的に見られることが様々な先行研究から知られています。

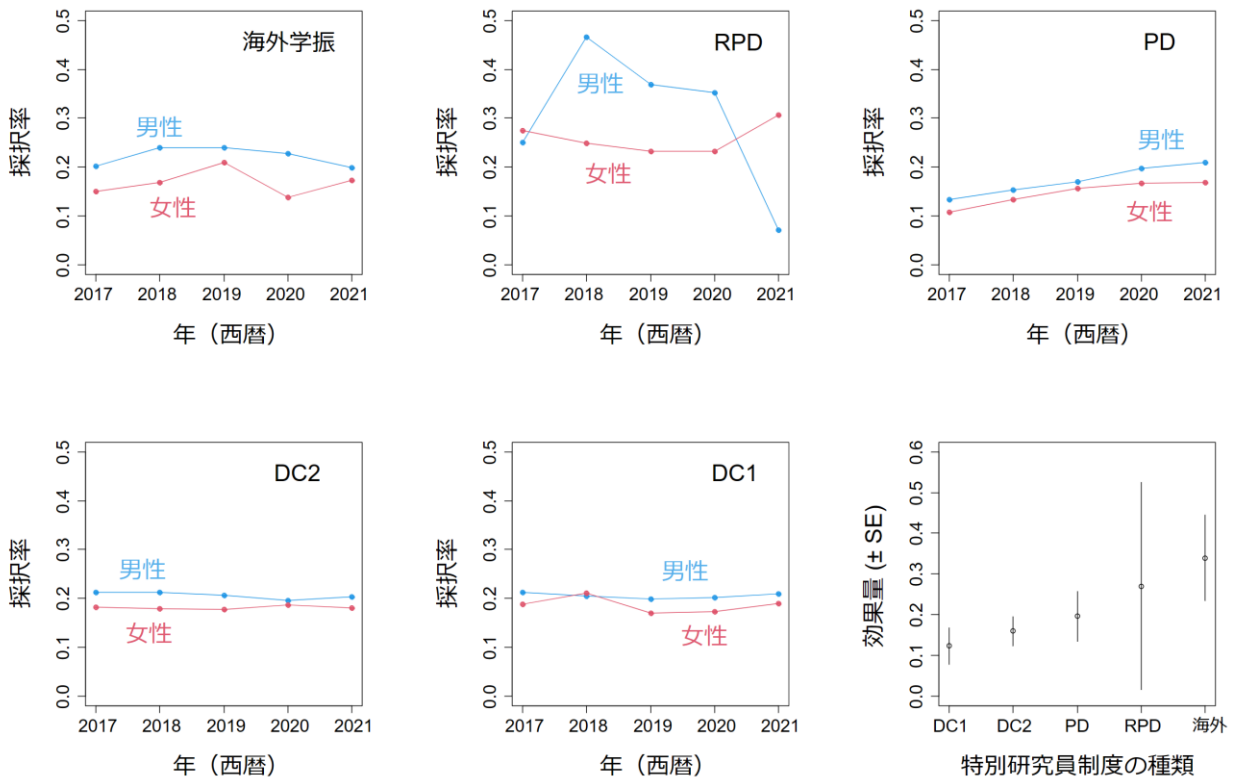


図2. 日本学術振興会特別研究員の採択率の男女差と、統計的な効果量（対数オッズ比）。効果量は、採択率の男女差が無い場合にゼロ、男性の採択率が高い場合にプラスの値をとる。論文中の図1を改変して作成。

## 【論文情報】

タイトル :

“Male applicants are more likely to be awarded fellowships than female applicants: a case study of a Japanese national funding agency”

DOI: <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0291372>

著者 : Daisuke Kyogoku, Yoko Wada

掲載誌 : PLOS ONE

## 〈研究に関する問合せ先〉

兵庫県立人と自然の博物館・研究員・京極大助

電話 : 079-559-2007

メール : [kyogoku@hitohaku.jp](mailto:kyogoku@hitohaku.jp)

宮崎大学農学部海洋生物環境学科・助教・和田葉子

電話 : 0985-58-7233

メール : [yoko\\_wada@cc.miyazaki-u.ac.jp](mailto:yoko_wada@cc.miyazaki-u.ac.jp)

## 〈報道に関する問合せ先〉

兵庫県立人と自然の博物館・生涯学習課

電話 : 079-559-2001

メール : [shogaigakushuka@hitohaku.jp](mailto:shogaigakushuka@hitohaku.jp)

宮崎大学企画総務部総務広報課（崎向・後田）

電話 : 0985-58-7114

メール : [kouhou@of.miyazaki-u.ac.jp](mailto:kouhou@of.miyazaki-u.ac.jp)